

「太陽に向かって咲く」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 秋の気配、感じられますか？

朝夕の風は少し心地よくなったものの、日中はまだまだ暑い日々が続いています。お彼岸を前にした9月の3連休を終え、地獄坂を登ってきた私を出迎えてくれたのは華道部があらたに飾ってくれた生け花でした。メッセージが添えてあります。

『花材はテッポウユリ、ケイトウ、ドラセナです。立秋とは名ばかりの暑さが続いています、お元気でしょうか。今日の主役はテッポウユリです。いずれ白く、きれいな花を咲かせ、私たちを元気づけてくれるでしょう』。テッポウユリは日々、少し上向き加減に花を咲かせようとしています。ふと、スカシユリを思い起こしました。



テッポウユリの名前の由来は、花の形がラッパ銃によく似ていることとされています。ラッパ銃とは、海賊映画などに登場する銃口がラッパ状に広がった小型の散弾銃のことですね。花言葉は「甘美」「純潔」に加えて「威厳」があります。確かに、洗練されたその姿は威厳を感じさせてくれます。夏の花であるユリのその白さを引き立ててくれている赤いケイトウは秋の花。夏から秋へ確かに季節は動いているようです。



校内の様子も着実に秋へと動き出しています。来月には音楽祭と体育大会が控えていますものね。ところどころで歌声は聴こえますし、運動場では集団演技「神高のあゆみ」の練習が始まっています。美術室では応援旗を作成している1年生もいます。しばし、やりたいことややるべきことが多く、忙しいですね。ここで、思い出してもらえたら嬉しいのが7月のアセンブリーでの向日葵の話です。あの日、私はこんなこととお話しました。

ひまわりは太陽に向かって咲く性質があります。その性質から日本では、ひまわりを漢字で書く時には「日に向かう」という字を入れ、「向日葵」と書くんですね。でも、実はひまわりが太陽を追いかけるのは蕾が成長するまでなのだそう。花が開ききるとあとは東の方を向き、頭を垂らし、ほぼ動かなくなります。

僕は結構、この話が好きです。要は憧れを追いかけ続けることができるのは成長しきるまで、ということです。逆に言うと、憧れの存在があるのは「なりたい自分に近づけていない」、「成長する途中である」ということですね。皆さんには部活動や学校行事、学習の面で「憧れの存在」っていますか。僕にはたくさんいます。まだ成長しきれていない、花が開ききってないからですかね。でも、逆に言うとまだ将来性はありますか。

「まだまだ成長したい」僕はそう思っています。「ここらへんで終わりじゃない」そう思っています。だからたくさん本を読み、たくさん人に出会うのです。「憧れの存在」を持っている人、おめでとうございます。まだまだ伸びますよ。楽しみです。持っていない人、この先の長い人生で見つけられたら嬉しいですね。

夏真っ盛りです。太陽に向って咲き、太陽を追いかけるひまわりを見たら、「あっ、自分と同じだな。こいつもまだまだ成長したいんだな」皆さんがそう思ってくれたら嬉しいな、そう思っています。どうか、皆さん一人ひとりが、ひとつでも多くの太陽を見つけられる夏になりますように。

自分のやるべきことに取り組む、それは大切なことです。でも、どうせなら、その過程で自身の成長に繋がるといえるような「憧れの存在」が見つかるといいですね。そんな秋が皆さんに訪れますように。

そうそう、私は3連休を利用して、気の早い彼岸花を見に行きました。このお寺には花の色に加えて開花時期もまちまちの気紛れな彼岸花があると、人から教えていただいたのです。「彼岸花らしくない」と言えば、「らしくない」のですが凜とした佇まいにはやはり心惹かれてしまう私です。

